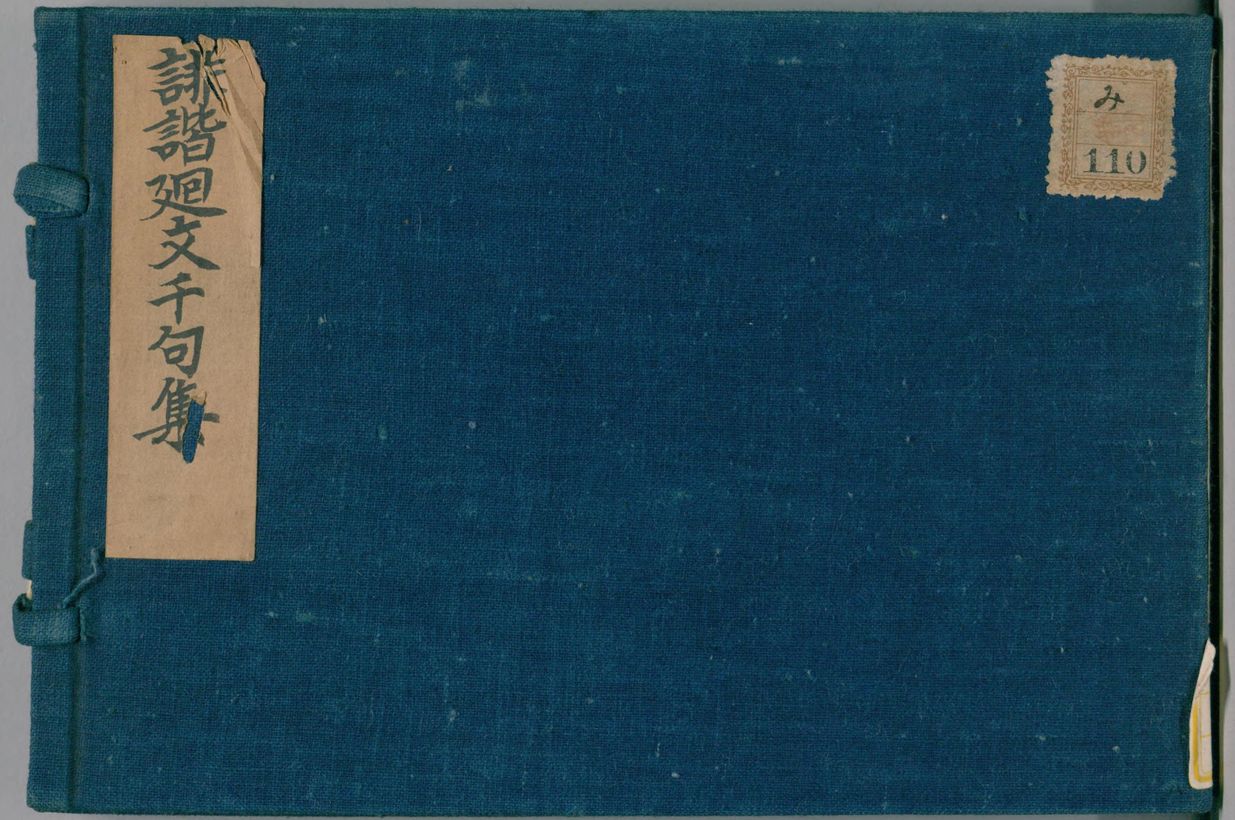
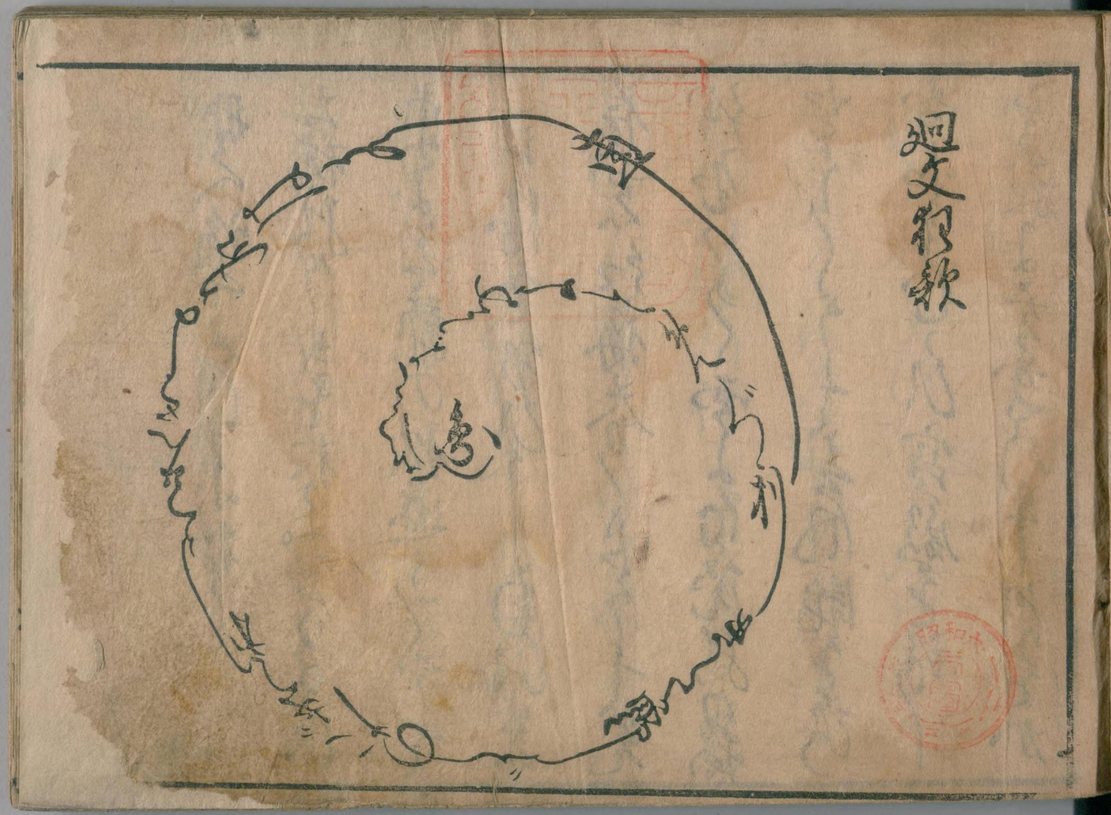


国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110

ガラス使用

入有のなごみ哉れい淺
智不知入口のさうをかう
いをおこそれそひかう
物うくハ陰更行人
後見そのおろそひ
をそひ出てをくのとれ
もひかる絢なもし

二時寛文元辛二月廿五日
中鳴民深尤房へ勝亜序

誹諧廻文千句水車集巻第一

白梅

それをそよきのひかけつまよ香
をのこそんかろし終へ梅もも
思松乃ひのきかれへ

勝亜

水野かへ梅うかうそん花乃瀧
松乃末長閑門前雀
ケキヒ 春日永打ち通こ乃叶ひそて
ナカ
氣こかをつかいたらなふ
凡はこをよけをそよ世せよ淺
資 三十ト

猟（ゑ）む　なこう紙あまうこれ
みとすきり（切）ぬ（抜）裏ぶり（振）ふこ月澄こ
称よおそれぞくよきこ所
句しハ分注連（十八ロニ）やあ前代社
妻ようたてくく門出
入くごとりくさの旅史をさこのとし
ちところやあこうつたこ人新銭
引よふこ宮ふこいこ三輪芳社
さしろふこうーこうくふこぞ
こべねまで（ハ千）塚み（ス）菜漬（ス）ふれねへし

角うくく
月ふんおきりさのもの生月をふめ
威勢をしさよおさみまのせい
詞とねぞだてよあてこ詞を脱（ス）
和歌うまよ世のおうよ中川
みふ花ふなるみろや花ハ浪
ふ世くよ多うまおふ風よう辻
ふもまふのこ子高おこ撰（ス）
ふまくくみくく補ふ葬くく
おまこ史をまふよをもこ史様こ

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110
ガラス使用

木おちふかきうめのく幹乃本

乳やうとうろ資朗ぞと作り山

春もみ須磨井居ますみどころ

月木のひかりふかくなる月もかうろ

乳ぬ秋きも野分乳乃ぐく

まよろいとくつまうり秋ふ冬葉

うりごこびび麻よふるう

他ふむりこえうめやふえ他ふ備

乳流ほうりみこ

うもきづうくうほびう

秋ふまびろうのひ秋まろまよ泉

うとうた風向けうたうとき

宮りほうううねこりや

春ぬるる月とみるつ天乃河

ひうこやふもびや田かひ

もびん雁金ううもおん

うみふびふぞ蘇武ようなこびう

乳るみよ黒(カビ)なうくよみちこ

来(いつも)もりくなう

来まだる野と慶うる今

にびふ歌こびふ着(ヒ)君ふ作(チク)

無花果のさくる（布）幕
みとうびや伊吹くう八重うとゝ
ぎすの茶つゝそ葉こゝにし
神（深）のさゝめ（伝）ふ乃新月の門
雲胸そゝふ物重ゞ狂ひさ
ゝひさゝこ洞よだゝそ（胎）ひし
ゝまゝ新ゝよにべさゝるゝ
ゝひゝのゝゝそゝつまゝひゝそ
ひゝゝ（向）なゝひさ（サヒ）俳永旅
ゝゝゝきゝゝゝゝゝ（キク）俳（ウク）ま

ゝそゝこゝも苦虫云ゝよゝふ田毛（名）
浪そゝこと繩（テゞ）る花ゞこゞそゝよ
ゝゝのやゝゝゝ大きゝ柳
ゝたゝよゝ毛さゝゝ毛ゞゝ
一ゝび燕（ツバ）かゝゞひゝゝゝ
ゝゝけゞゝ毛ゞ青ゝゝおゝし
ゝおゝそのきゝ月燒ゝ宮
八ゝさゝ先ゝゞびゝや
みゝのゞゝゝ初陰乃波
ゝ毛ゝよ緑（ミウ）ゝゝゝ毛ゝよ

庵ふよもぎもきねうちわぶ火
水き月と学文も若うこひきうみ（回）
笑ひ木花そ〳〵乳乃ぐ
ほゝもせみ（蝉）さゝぶ〳〵て
よびくだくよ〳〵
こゝろやい今ゝむこまいやひよ
村乃名神乙うハふ乃ゝん
遊りてお月のゝくものづゝ月お星て
ひゝをせてゝ招るよだか（鷹）や旅
猫やたがおうちの前う行山家

く〳〵第ふきんしぎ（禁）弟う
事分たハ雲（ハリ）荷ありひ富よ
なぞりうるゝ消りうりうや
位相功徳福うくまざ（一カ所未）のく
乳威（タル）ゆて天下泰平

合五拾八默阿長十　両武

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』　請求記号 み-110

ガラス使用

寓

なよくとあまき寓ひろく春なるか
ま野月梅香ざかりえ梅の木
てらふと仕清る今宮ま祭
よそでいくひさなびくみぞそよ（旅人歌）
笑ふえに梅ふりの毎月和よ波
岩深ゝまさ雪ゝ深ゝ春
道ゝえおき家月をちちえん
風ハそゝ花や八ふさふさハふよ

ゑくよ雲入高おこむ遊くよ
只一雁そびっ鉤（カギ）鳥うたく
雪ま行ふ雲入月笑ふ松ふるわや
まぎく夢想（サウ）うさん降ふく
どこそろ雛鶏（カイ）ういの作りそ
りもやし田田入こもも
ふづでまおろくてふそまそ（雪来）
ふづ雛ま（ズイ）（孫）びりやふりつまぎりく
なそこふと紀つ月をえふこそく
鶏やとふりやゝゝ

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』　請求記号 み-110
ガラス使用

地こそ見るこゞろしもふさ田
張舗(ハリ)未(ノ)参(ヲ)也(ナリ)
ほと〻ぎす花乃蔭(カゲ)いたゞきつ
中〻乃(ノ)こゑ哉(カナ)
妻(ツマ)をとり家(イエ)しみぢう人(ニン)をまつ
ほと〻ぎす殿(トノ)ひでゝ夜(ヨ)舟(フネ)乃(ノ)うらやま
うで射(イ)おさへたるこゑのうら
ものこゑ〳〵こゑ〳〵こゑのこゑ〳〵
星(ホシ)うりも苦(ク)瓜(ウリ)月(ツキ)有(アル)星(ホシ)うりも苦瓜
ほと〻ぎすなくやうわうの冷(ひや)

ふくろさし物乃(ノ)うしろ姿(すがた)も寺(てら)
きりやいろ〳〵井乃(ノ)水(みず)や杯(さかづき)冥(くら)
みざゝのと餅(もち)や餅(もち)もおかるみ
月一日のつゐたち哉(かな)
土(つち)ところ〴〵岩根(いわね)ばかりの苔(こけ)ぢ
蔵(くら)〻の雪(ゆき)こそ〳〵寒(さむ)し
凍(こほ)るゆ北田畠井湧(わく)る音(おと)
夢(ゆめ)うつゝなの夢(ゆめ)
こと〳〵月月(つきづき)雨(あめ)うつゝなきつゝ
歎(なげ)ガ聲(こえ)よの雪(ゆき)ふる躑

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110
ガラス使用

気あらう(ツタ)きつきつ(キツ)き(カイテ)楓
ものみ(シキ)紙つゝみ(シ)よ
利まくらもと(ナク)竜うりとぞ(スル)
なれ(ナク)葛う粉なるかのまゝ
まくら(スル)勢ひ寺まくら
なりけり
吟よ物よ小児こゝろ吟よ
わらねなひよ(オビ)ま(ト)
角(ト)一つびく(ビ)蜻(トビ)くらびくらぶ
蓑くら(ミノ)ん海くらみぞくん
蝦くらくらくら

今作(ツク)ど花か死か法(ノリ)行(ヲコナ)
狐(キツネ)鳥(トリ)修(サク)や(ヤ)く接朝
そ(カメ)と龜の尻(ケツ)れ龜の尻(ケツ)
吟(ヨバ)むまぶ(モウ)なよ吟(ヨバ)よ一万(マン)栗
編(アム)ぬさ(サ)むや中栗(ナカグリ)ん人
れ(ル)く(ク)ぬく(ク)但馬牛(タジマウシ)料(レウ)
月(ツキ)乃うけう(ケウ)幸月(サツキ)乃うれ(レ)教(ヲシヘ)め
紙(カミ)ぐ(ク)ら(ラ)も楽を小倉紙(コクラガミ)ハ
吟(ヨバ)ぐ(ク)ら(ラ)ん秋(アキ)高(タカ)ふ(フ)く(ク)軍(イクサ)
吟(ヨバ)ぐ(ク)ら(ラ)ぐ(ク)ら(ラ)ぐ(ク)ら(ラ)と

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110
ガラス使用

貧乏ばなしは聞も苦しう候
久月

天神をうつくしう作つて
うそつきとうそぶきけり
さゝがきを梅をたゝかせけり
雛はとてもそつくりやハゝや
風狂のつゞみうつ宮入猿みや
ゆきえん風
ゝ
松も百枝うつ迷ふ秋と百枝
ゝ
ゝ
ゝ

そんな折ふしの心のもやし
寒しの忍う補一石佳水
開きないとぐちて同じてめさ
ぬり世うさぶれ物まてうせ
芸バリや雪も霜とも笑ひ秋
月見ひうひうきうよ
こゆきすはなの人会仏吟うと
分るげてう結うてう談神彼
同みふ横弟物よはみふ
さうな談くうれもうさ

寒ごとう和歌の門ふ
月うるうまれ宵一

雨雪せんきぶ風吹むせてなよ
大根な海をうおどもまふこいさ
ウ
み祭よ称る月称会よふまう
ふれ里ふ世ござれ句う
ふうを仕見とうてお弱を作
俤乃ふうり程い称乃うそ
称り里ふ世過了芸芸過れ
り大系代系い多一も

花

ふくハ葉ものゝ花ハ花こ葉

葉ものゝ花ハ葉ものゝ花こ葉

ふりかゝる寝ハ葉ものゝ蝶ほの

時そんい

ゆきもちらつく夕町五条

乳て雨をひさう傘ひ小雨つゝき

をきとらぬ風をのれ弟ら

ふの春月夜ゑ山村ふとよ月夜

女子ふ乳ぐらしこゝハ春の中

十歌仙

ふーかみの春ハ春惜ふ春(キヤキ)乳ゆ

狂歌よみのひ月乳浮代ゆ

合六拾二點内長拾六

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』　請求記号 み-110

ガラス使用

ワ
紫ちよとる夫なきふよおひ泊よ辞
おほん風うそひ一うそん多よ
八十ヶ泊や指ひさそ一ハ春ゆや
分わ教さわくい室なとそるうさ
せ
せくのちよざいや心さ浪人世て
行うた免ぎわ海矢たりんな
志そよさき廉協わそみ乳と物
和
きつつぎそ遠創よ見ささそ凡
ぞんんを多ぐそ世ひとんぐう

志そまの廉鴎よまう妻志ろ
凡文物みふこ
志そ林のうこそうそ林面
さそうてもそ
志ねそ疵ヶ疵ヶ
那頃め花の花
ふそや山陽物やまの見
鰯もそりぞちのるそのふ
それ乃のハ人倚よそまれ
羽そうふそはふ精落ぼ大順
伎なく大升ふをとのまま

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110
ガラス使用

時人まち行秋をたゝ秋風と
ふまの名月
しべ哉取の白露つとしれも丸過
ぬやきのふけふあけぐろやまん
下ひえ旅と寐しの腕でひさとこげ
貧窮餅八祝もうらびう
名のよもちり
芦野まてなをうまの月
村るうとろる名月指そうん
雪きる山やなをさやおもきみ
ちへいへ

[illegible]のそく[illegible]風をハそうゝ
角うつろふ古川はく
ぬれ葉るる狂ひこそまし
狂おきこよの毎
気よとる[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
秋よ秋子[illegible]
[illegible]や[illegible]
[illegible]秋そうき秋よ

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』　請求記号 み-110

ガラス使用

売りもてく酢あめ〳〵ふうどもの笑
ふとれ笑たふう
芳野の月うきものくるよ

嵐ふるさとや物うるよ冷うき

葉ずりきく笠ハ蓮ハ青柳のん

末富九阪きハ蓮ハ末掃除

ねぎごとをうでしの徹あさぎれ

嵐ぬふりろうれもふうまう

さよ作世のよ（ニ）行像（ヨ）名参さ

嵐そのうれ初庵もてく法乃（ケ）祝

嵐きみつまん〳〵

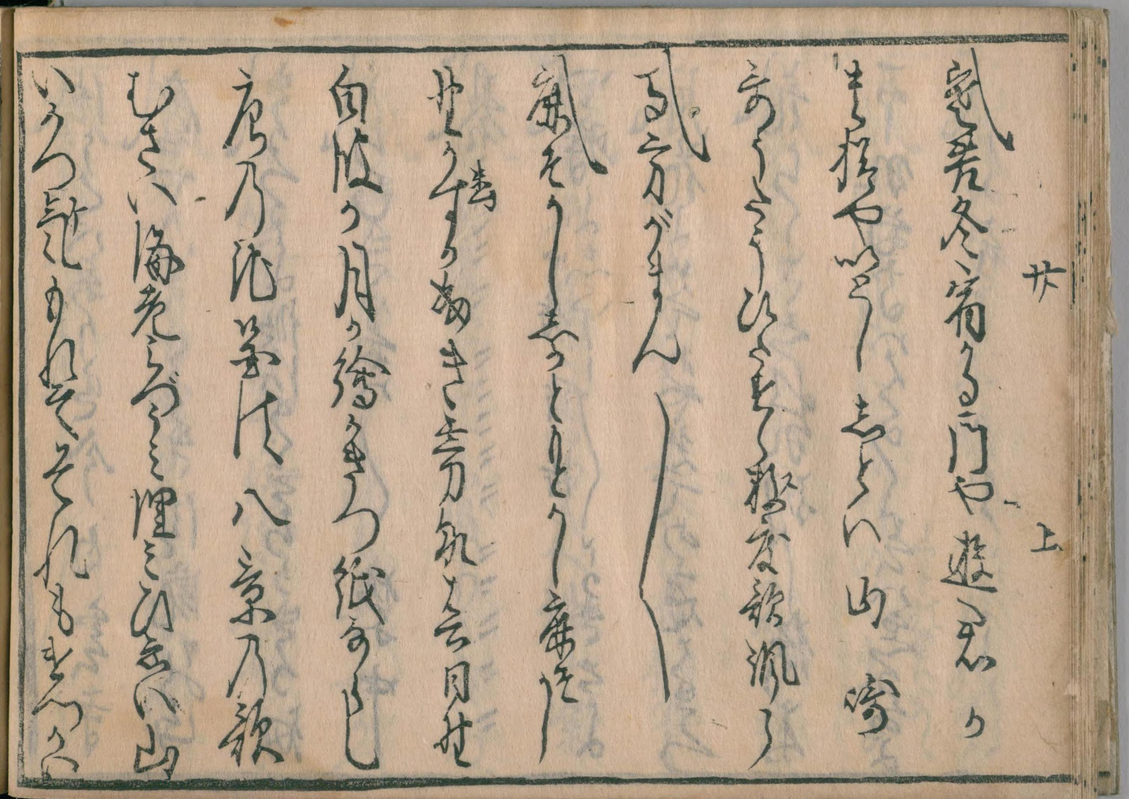
伝うくハありもさ今日雲寺

嵐磐やひきくよもさ法蔵ひ西

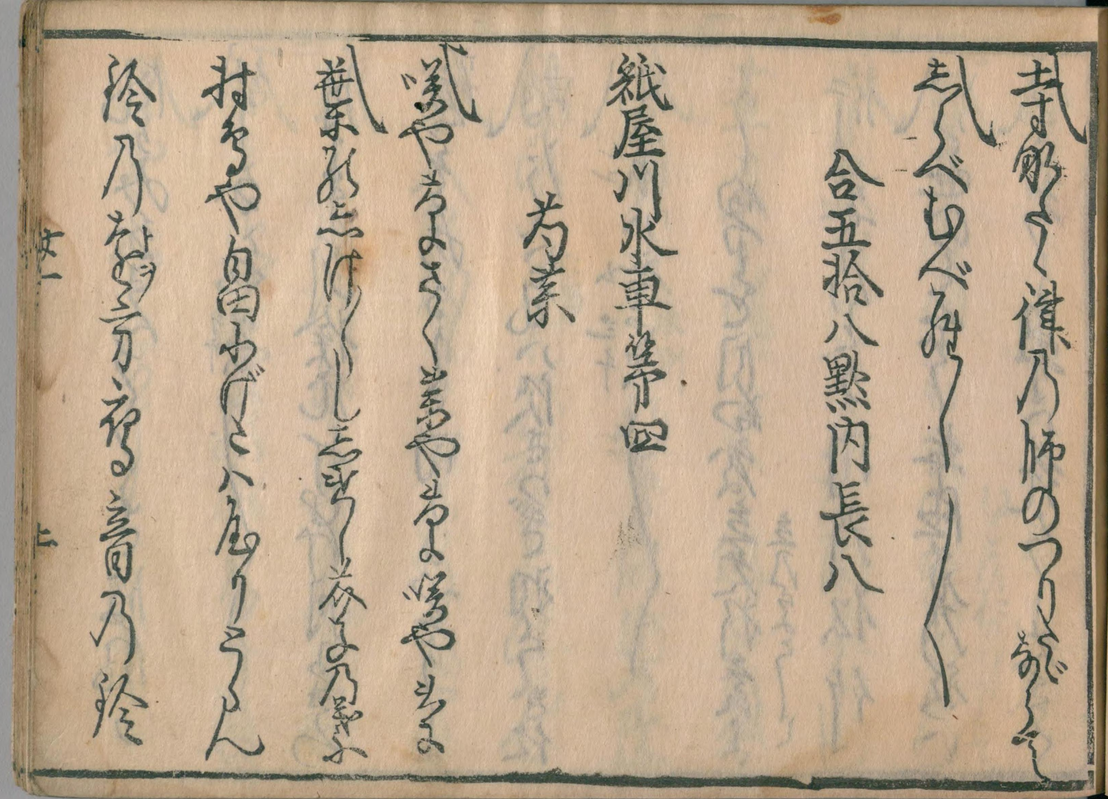
嵐きうるでよ伝ひてぐそうきる双

嵐うもまで富かく〳〵禁中

嵐暑ニニニ



寒冬に有る門や遊ぶ子ら
ま柿もぎ〳〵もらい山の湯
うつくしひとも歌会始哉
る方ぐるま
寒そうにそうとう奉る
乾坤乃花茶代八京乃秋
むさい海老ぐる〳〵理そひとい山
いろ紙もそれもまつ



寺納ぐ律乃師のつりがね
ちんべもべ〳〵
合五拾八點内長八

紙屋川水車第四

芳素

嵐やちよさく〳〵もよの雪
世ぞあだしかりしもの〳〵巻よ乃景
村そや白ひげと八百りうん
冷乃なき方有る音乃冷

風うみおさんつくさ陸風う
笠一ヲ私蓑
月ま雨の検地打ぬけ月ま
海そ春るうこ回るそ
風たくば気八吹さらぎ初うき仕
沈霞ハ冬実
ょ物をを見る交打会よ
衍妻乃とク門乃松竹
八遊のこそ年陸男乃秋い
今そそ鼻八花ク

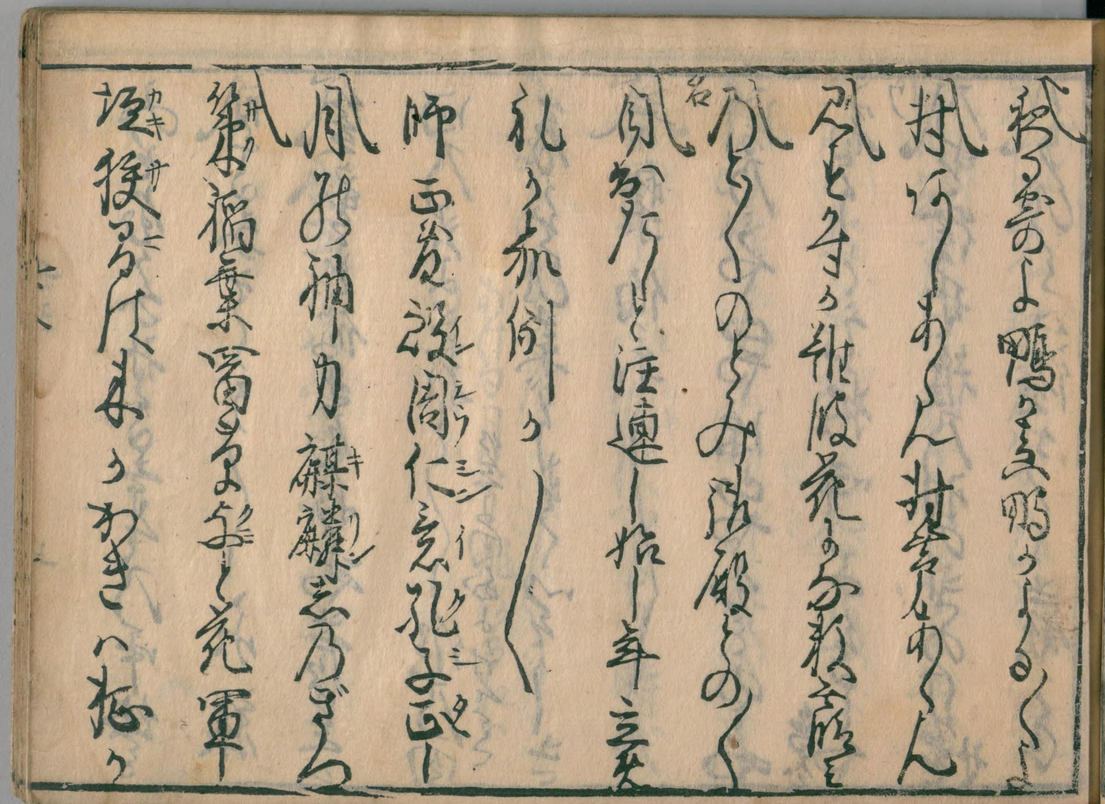
月よきくそ
出うう雲乃も虫の音そも
ま雨雲村よ雨さうこ
並ふげ〳〵仰さ菊
月きれ家氷刷れ庭池乃隙
たびとそ雪八蚤をそびう
夏入を海さ資打ぬよ
気一月乃水鳥の行ろ八
気ろ比やまおんどるまや
風やこそ〳〵

會日まみの濱ぐりの八祇を會
小ざるより君ぬえ入うり來
揚うや寂しさおかるきくや
つゞひ俤ろを洗ふうひうち
ゑひし人夜寒ぬぜざえひさうし
月の乃え大豆お名ゝ
十三夜月影きつゝむ君の紙
三郎で軒猶萩乃そよ客
遊よと約まる小車さけ遊よ
宵ごまそとやゝ

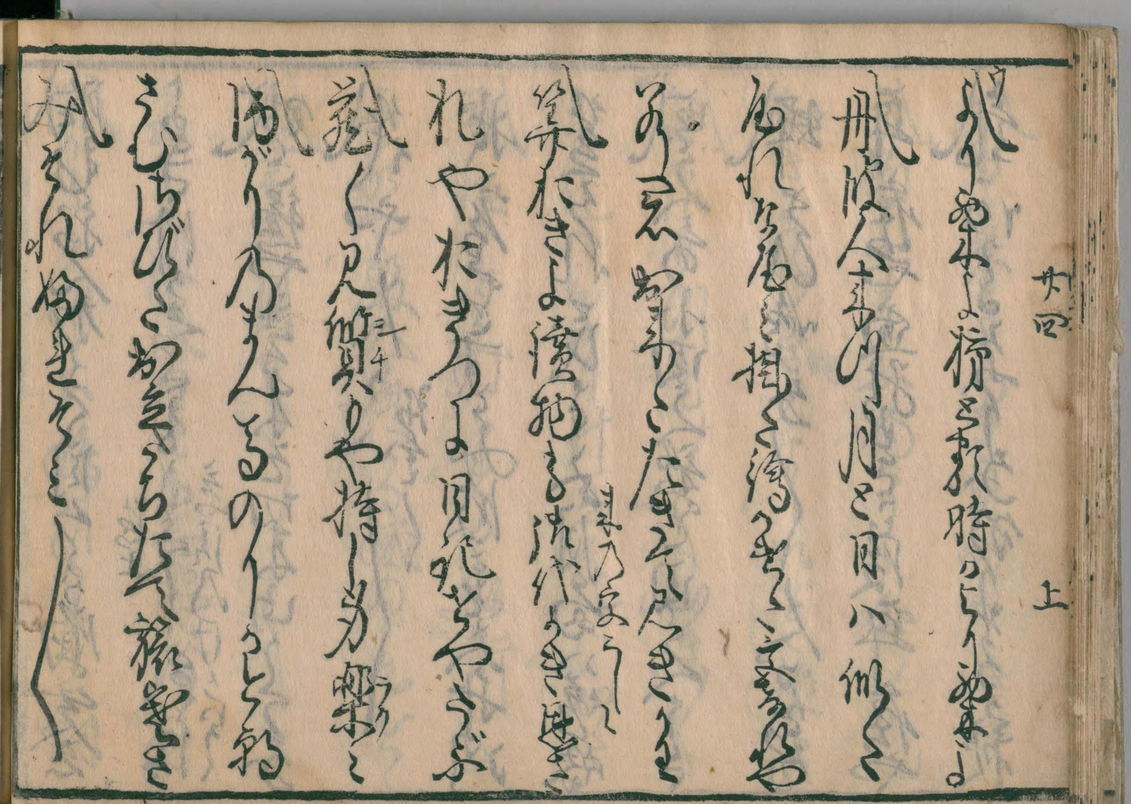
約束やうよおりて約束や
ひとえゆゑよあらの
墨乃袖かな乃月よかな村よの川
流つきやもう窪ろやきつゝひきき
村陰しよりき秋のよごろ見
鳴うちく人乃並ごろ冷ゝ
寄たくへやさ初角ごひき
友ぶ来つるよ来る月乃く
よむの君の寄歌乃ひゝ字よ文よ
琴お約きて私をすぐぎお来
一ろいて

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110

ガラス使用



我ら宮のよ鴫さ明うるくる
村なりまんん井客なりまん
風と今ら雑談の教育所を
ふらくのとみ法殿とのく
風名多ら注連一拍一年三更
礼う氷何う
師西多談閑仁忘孔ミ記
風形補力薬藤三乃ぎら
第福葉當多彩と死軍
短後ニ尺まうきい松う



我ら宮のよ鴫さ明うるくる
村なりまんん井客なりまん
風と今ら雑談の教育所を
ふらくのとみ法殿とのく
風名多ら注連一拍一年三更
礼う氷何う
師西多談閑仁忘孔ミ記
風形補力薬藤三乃ぎら
第福葉當多彩と死軍
短後ニ尺まうきい松う

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110
ガラス使用

みそなうの井手の中将
風そよぐ
ならの小川の夕暮は
みそぎぞ夏のしるしなりける
藤原家隆朝臣
風乃吹や水上遠き夏の月
雁乃なき初しより秋風の
寒くも成ぬ野辺の草むら
藤原俊成
ほとゝぎす鳴つる方を眺つゝ
有明の月を待出つるかな
藤原定家朝臣
ほとゝぎす雲井のよそに過ぬなり
我やどちかき声と聞しも
後京極摂政前太政大臣
きりぎりす夜さむに秋の成ぬれば
衣うつ声の遠ざかりゆく
二条院讃岐
我袖は潮干に見えぬ沖の石の
人こそ知ねかわく間もなし
寂蓮法師
村雨の露もまだひぬ槙の葉に
霧立のぼる秋の夕暮
西行法師
心なき身にもあはれは知られけり
鴫立沢の秋の夕暮
藤原定家朝臣
見わたせば花も紅葉もなかりけり
浦の苫屋の秋の夕暮
寂蓮法師
さびしさはその色としもなかりけり
槙立山の秋の夕暮
藤原雅経
み吉野の山の秋風さよふけて
ふるさと寒く衣うつなり
藤原家隆朝臣
風そよぐ
ならの小川の夕暮は
みそぎぞ夏のしるしなりける
藤原家隆朝臣
風乃吹や水上遠き夏の月
雁乃なき初しより秋風の
寒くも成ぬ野辺の草むら
藤原俊成
ほとゝぎす鳴つる方を眺つゝ
有明の月を待出つるかな
藤原定家朝臣
ほとゝぎす雲井のよそに過ぬなり
我やどちかき声と聞しも
後京極摂政前太政大臣
きりぎりす夜さむに秋の成ぬれば
衣うつ声の遠ざかりゆく
二条院讃岐
我袖は潮干に見えぬ沖の石の
人こそ知ねかわく間もなし
寂蓮法師
村雨の露もまだひぬ槙の葉に
霧立のぼる秋の夕暮
西行法師
心なき身にもあはれは知られけり
鴫立沢の秋の夕暮
藤原定家朝臣
見わたせば花も紅葉もなかりけり
浦の苫屋の秋の夕暮
寂蓮法師
さびしさはその色としもなかりけり
槙立山の秋の夕暮
藤原雅経
み吉野の山の秋風さよふけて
ふるさと寒く衣うつなり

合五拾八点内長九

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』　請求記号 み-110
ガラス使用

紙屋川水車第五

納涼

[illegible]

[illegible]

[illegible]

弐寿を仕給ふよむうひ死給ひ
このうと勿ろとなるうろ乃よ
成ぬ末う絶るハ死をまれ
みる人ハそまどひるこ
をよも亡がよいとろ涙ひの
庫を長嶋よりきさうろ
新郎まこ備をもきれ小うる
神事法非もう

不仕葬祭うとハ乃ほ勿
ひしろ勿向ハ相ハろ思

落ありまろとり人雑なとれ芳よ
風をきるよ秋る月や星
さうをおろこれみをう陽づ行
さぶさ神さしまさこよ勿ぶさ
乱れき杜ろ此面ぬきれを
ろみのしをおむものを
みる死かれるお雅死ろえ
乱そごいとそいくそいぞ
乱人をひ月ぬとろのひをう
つきのや名とり

血ぬるむのりも幷ぬ朝ぞら

たいる石ならこのをたゝいて

よひたち梅本寺よみ寒な

うちむきに落ふく梅ぶ中

水ぬるむ魚ぬこもりしれいづこ

はつ入ぬつ

ふつく雪きえや高浦(アヤメ)行ふく

ふ

ちる梅やふの愛賞よこをうし

みのくぬ雪ぐいるのこ

聖(ヒジリ)月(ツキ)蓮(ハス)を綱(ツナ)とも引(ヒカ)ぬて

菓野(クワヤ)も幸(サキ)ぬ花も幸(サキ)ぬ盛(サカリ)

養汁よ時秋こひる汁よ

作(ツク)麻(アサ)ぬ績(ウミ)ぬ紡(ツム)ぎぬ

血(チ)ぬ言(コト)の執(トリ)鶏(カケ)なれや秋や

門(カド)ぬく船(フネ)ぬく山中

あいぜ人(至(イタ)るあいぜ人(逝(ユ)く)ぬ仕

ふ

ふ一こ同(オナ)くこそれ民

風ぬ穂をよむものむもふ風ぬ

福(フク)ぬ来(キ)ぬふふみなふ秋の朝

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110

ガラス使用

風や八月朔日つゐたち川よ
興き氣そひの使時つゐ
生れ出るそ行春のとの
ふうハのとハ嶋乃そうう
言ふや八まん町ハ言ふやや
よとのこたびたこ北おりて
下枝の燥きはまく角ふし
秋つきり餉そうもつきるよ
ふうつて伝乃木枯るつたきき
望田あてう

貳

莫梁原津長らく名ハ来鄰や
初うし鶯ることすぐ鶯の羽
矢たまりうすみうら花をもう矢
試み新ぶもぢん舶道
秋宜ふや誹なりみつとをきる
風をよ森蒼いふまるどや
月も名ハ清水ふよき花ぐり
仏き物をうきまきり人名
言うぐ死百るとりふうや
流る物もきを

言新ふき

ふじ雪のよし狩ノ富士ハ狩時もし
ぐれみの人太郎名たのもしく
月きけ夕ぐ曙ちゝをたもれ
句よを重ざ法城をさよ重
ねまくさく芳名よみさくさく
ふき拾ひみなし心為よ
かいのりうさる月さりみ名
宝位そそ捨氏ノそ宝
瀬の名きりくなをさ落
ノさよ夕を

松乃雪ノ折折ぞ狩ノ妻
名の宝ーさびさう笈ノ名
月をうべよ法ノ御を月を
ひさい薬ーか星もひる火
みまぐひ新りさみふ重ふ
しぐ多さみ会んーー
ぬれ死で切法学法さみりや
と名も桃や宿も桃さけ
業ノ威伯源提世ぎりさく
若いく会ノ後のひぐく

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110

ガラス使用

四合うりわるい狼も催主頼なく
ふう亭弟クニ門おく一義

令五拾七点長十

七夕

塩つう宝更なの二の星
ぶる君日地よらざる月
照りかの歌門の猫実実もの
岸萬ふ人ふく一ふ明
葉ふ浜り書ふふ精
ふりまの山やふふくさい
ふ今でもふりぞたぐ
業汁ふふふふふ

乳子夜義寺なくて治定て
氣ちがひかもれバこそ鳴食
ふを待て火もともす火桶ハ生ごみ
夜よ月をバぐもるな孤よ
鶏と泊るを秋ふかるこハよ
朝力高ふなる名ばかりなさ
白うみや苔なまぐさ闇の夜
空ふりと待妻ハどこ〳〵そ
ねこ主家を育こ夜去のつれ
ふきをうたふ神さまさう

地游さハ砂をこぶし畑石地
芝伸鶴ハ春ぶりく
もゝをのこ商布ねまこ光氣乳
色先ん雪汁もりるしさ雨ぬや
焼やお野火八野の火ハ野を焼や
忌むさくさく〳〵　三昧
世乃中ハ終の為ハつこる死世
こ終くなトハ江勤をつくろう
りうこ旅路をこのぬうまこ衣
補ふぞこねへぶし法師

八林任連ふるめしまゝ務て
風次もれくるも森かりも
寒るゝなる園塔あるまゝ
新そろるやもそるみそれ
風まかり濱そ濱そ宿毎
しれもりの暮
月の白よ白露の緑二白のき
九冊ハよの毎そよ〳〵八朔
風救ふい甘蜜ら芳面八稲救り
れそこのうそこまの堤あそ

駆ら書ら用救そ務そうりて
風魂のそもりやもらら義ふそ
死者病ふれおうめそ亀む業師
つぶ森撲川ら冊そう夜会佛
要集よのべ行のよらよ
風ろみちそ〳〵
飛ろるふ旅そそたり狗ふまこ
野干のこうそ大そこむりや
ろ伏見そしれ月をかそ
云火曹そみやひ曹そ

香の花 二花の神 二ツし

名人 おひし 意地の張ん舎

名人 音 二月よつま 鐘の音

ねぶたうれをおれがうるれね

ぬこともものこころ春の

名人 このこころがうみのりを

蚤も腹こたべりる女よ

ーるのあるー

黄の粉 打ちぬんきみのの

みな京氣秋季秋池なく

月つきの月くつきの月毒

名人 ふくろ ふくく吹こ

感ぶん二分の切匂ふむ投込

非なーまーあひく

虫不審 俄やあやう出角人

理乃花 ふとびく針乃足

脱ね前手やすと脱ね前

放ち蛇なるちこちなる

甲斐ぶ二半のぶ半飼の

名人 楽ーたこく花こ

潮白一坂二白一坡白一

秋雲月雪来雲月雪

又逐雲雪来雪月雲

風うけて明方

水にハ海うミおぐみそぐくあこ

をゐ人ハ月やゐ船ゐやをゐ人ハ月

ゐをりもぐらゐ乃秋月雪うけ行秋

軍も作云ゐくさもさくい

きくびなうあこ今花あこ香や南よ

ゐうやこをる八吉や弟也

雑波浜濱洲ゐまがたうゐん

ゐへ鳥賊干ゐ塩干海邊

をうゐしかうゐむ私以走りんを

掌云弥一やい泳自然居士

信ぴんな法乃法のゐ光南禅寺

をえりうこもゐぴ衣絵を

ぎそうあうこをん新月たてよあこ

ゐよ秋りもりうこあよ主

伽の古妻壹刈やう松乃ま

雲こそくく作こて道心

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110

ガラス使用

水車第七

月

風つぎ〳〵紙よこ磨りて春よつぎ〳〵
ゆづるふしまやもる守る家
狩人や一村雨の名残を射て
自つ感
吟〳〵つ奇よい夜
八ひを字めくもひく
業掬つたまうかくみ
さゆけわいを

風の〳〵遠くまで字ふ〳〵
流寵うい猪るざいうい市表
鳴なり〳〵名好心菓子筆の
実のりありて実〳〵
あの実菓二句之
破家中書つく月よ折句ひ
扇ねさ張そくきりくう
ゆうまやう名句山さうい
きゝやお城〳〵お屋敷
魚清水無漏る夜
うれ新りも森も惟富

乳をもさきに法花の和歌よみ乳と
えん 遠
うばひ乳母も歌源氏見よ
きよもりき 清盛
乳母よんでもうせ
乳ふまとびおりも祭りも嘸
乳一年宮そこそこのき
松へ吹ふうきもきうりうべよ
村雨のそそれそれそれ
村雨の事ノ仮名ニテ
乳かきわけ世もすゑ物語等
揃うき竹
八重さまざまの
八重さ月夜火縄も花火のさ月よ
乳返たり
乳母よの葉よ
乳ふ風よ
乳ふ
乳ふや童垣ふやふや
乳ふや
乳ふみ仕ふくき兼よ
乳ふ
乳ふ
乳ふ

氣ハさらざらめ爰ら乞ふ給ふさ
あれと父母あり死もまたあよ
る今吉樂極まれ楽ぶべう
かのさしくも未食乃舛
なきのいく居宗猫白うあり
みなく世並皆世なみく
なるくう穂よかよのかなる
まつちもそうくを月
ひんるる浦君さ弱むう
月さむ矢むさん

ほぐる行つよ夕公さ切るも
佐ら本のびさ旅乃まり行ら
家志の陽さる昼金迄志ら家
田を降うこをれう迄を田
ぎそづこ雪る山きのあく
みな花ら小初花小枝
りうよ梅深さあう衣
等一浪調を水さつみ舛
世のりぎひ雪梅さ旅れさ旅の代
武云　真言

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110
ガラス使用

看經う甘き岸乃明のんきむう
月をみのよふ旅しのんでり
気されぞそ雑談を晴さぎ
風ふり物哉
逃ふば呼撃こよ死ぬけよ
歌ひをみふとり貝殻う
角う風を吹れる花ろや
乞なしよう化ぞれをもよ
中そそ行後そ文ぞと約そる
のまを屋湯ユヤを家ゆうをまつ

帆をふりむを実要を御と
戎乃る釜の売
ふりはやあふみの神ぞ
小乱吹智すき乱をふこ
風や気が旅りふりかきむや
ふぶう寄いく旅たい
乞わい若ぞ裏を喰
陣まがれものくがらう
ふりを笠乃をみまがきふ
乞るれりひき旅ぞつまるぞ

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110

ガラス使用

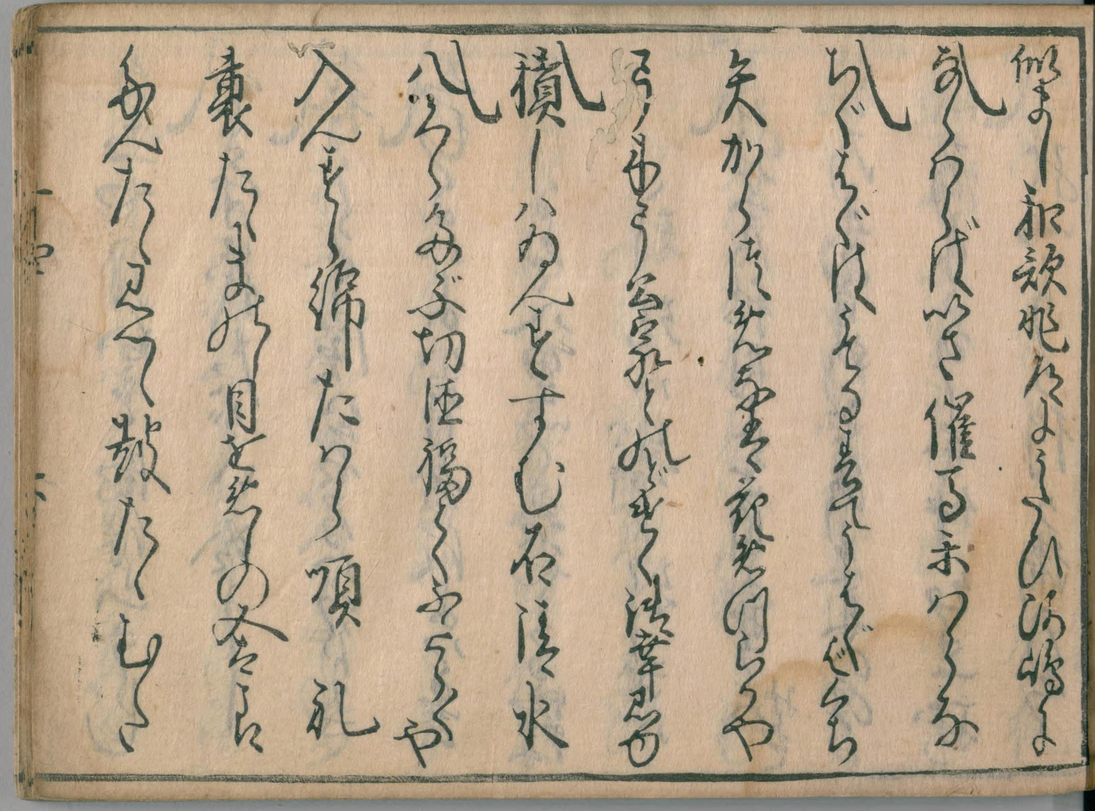
国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』　請求記号 み-110

ガラス使用

人まどひ籬屋乃井戸へ人あつ
まる夜間より月孤まるものくう
そうくしく風色そこの福ぐを歌うまを
其儘寝ころぶもくうゆうる四
ツもの男子このづくなどひの立民共
みるけるくいかいもどうるこ
ともくまをまるまをぎりくまを
乃ふまる寄稿湯くくう
ろくこうよ穿鑿(センサク)三世不可得よ
云狂(ムレ)狂(ク)るみないう一ツ

賤貪し嬢まの食一ぜのまうし
うそくまを奥ふけくまを奥
今朝みるまをのまをの弟子ん病
泳ぎをなうくそひうや
蛭ぐらへ入る井ハ雷鳴う
蕎麦ぐも百石うちまき
擬宝(ギボシ)喰一番すまの蕎麦
乱さくう月ん三日ん沢こ
井まの蕎麦湯や沈乃林
風乃玉水一沢こ又乃先

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110
ガラス使用



我を見る俤俗と作り並
ぬりく新をく老仕
荷も苧よの春うり賣ハ宮守
乞ふ
中宿入東寺井住人乞ふ
稲荷か社のおびくれの
社口さは入坂ひ葉竹のよ
ましをまう垣ハ葉入ま
ふもとを法師居住ひな
発撰世を宮法経ふ乞幕

仰ま和歌ハ花ふひ
乞ふ乞ばひ催るおつく
ばそ乞ふ乞ふ
矢かく花ひ
ふ乞ふ会乞ひ
積一の人をすし石清水
八ふくあぶ切西猪ふふや
入人を綿たつ頂礼
裏たまの目をの名
あたふて数たふ

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110
ガラス使用

白玉や月おを殿ほ山ふし
鳴さす秩父たがい玲
霧ふく渡ハ岩角ふりき
ちもるハよハ音吉氏よハる雲
打もるそ八重ふく霧る蜂
掃き刺猪ハ(ハキ)等ぎハ
そ子の宝乃秋月よを月よ花ふ
旅八ま當好を為そ来のびく
秩痛ふうの武仲ふ三騎
そ行ふりう待ふ猪乃そ

付虎とうくまふうく虎を孤
孃ろや小児こちこ山ふく
腰ハ〳〵むさい妻ふをふつくろさ
宝実そ去ろ角ろるハ舩しむ
風ふとみそつく機糸兄とふく月
風脈あやそ〳〵閉るやあり秩歌
舩〳〵ふりとひく當秩〳〵う
ゆまふつ星分なあふふくふ
ふる大三待〳〵ふちまふふよ
颪ふあ〳〵ふて手足あふれさ

建藝田沖花ろ〻組ゐ田
宿会を百〻時若大宮司
代乃仕向を一門のち〻添臣の代
藏ゟ若宮素針神事一つ松
ゑろ元そのびゐ乃ゟ同ゑびゐゟ
弐番ゟ〻ゟ〻豊年ゟ宝
ゐ〻ゟ後や氷ゟ洋後ゐゟや
添べん水ゟもゟ為ゟゑ
祝ゟゐる奥ゟ死供をゟ〻會
高ゟゟ於箕中折ゐる祝祖

作〻ゟ主在家ゟ句ゟ
ゟゟゑゟ乃ゟ亜ゟゐるゑ

合五巻六黙長九　西武

庭火

凡ハ夜ニ入神乃奴ろ夜ニ入て火
焚も久ニ成ル自ら端も寄
り月ろ満人数集まきりまで
ろ〻ろ〻ろ〻

氣そる八明ぬ秋一張や
ふでのこす氷むしろの
三すの名ふくはゞら氣
ゐを梅うよう妻娘
ゐ乃永ゐ(タチ)嵐八白のどう
地まるく活乃く車椅
よハゞ一八の一つ羊乃ゐこなよ
ゐセバ抜きぬ脱八川脈う
月も恩ときゐ七々無ゐりひ
虱むしそゞり鷺そそゝく

松乃まの雪うかつまき新乃妻
ゐゞりるのこ月乃まりも
れ鴛一よ猫屋太よまりて
升をむ世界よよいう泉水
ゐをや人ゝべ蛙八ゐひゐや
ゐゝ一月れ子中外書資
ゐゝ餅しこゞか鏡りりひ
乃りは祭よ
気ういこい麻枕(カセ)ゐ老ゐゝ
ゐ付一鳶八ゞゝ孤う

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110
ガラス使用

焼のけもも雀うこがれ物のもや
さうる片あぜくりかきもよ
ねれかきをむしの命ともやまの
仕をい遺教ともいの物いう
只もの父母つく羽ぶく深野
ひくくうよみず於浦人
神るのよ壮うやみ井う
待ちみ信吉
ひさ指ひうひうひうひうひう
礼きり深山ともも六文
ま（キサキ）きる分ぶう咲う苑名
せうれいうもよくくもの風
ちちちくべ八意よ地ちち
礼う鳶ぐ着ううく
八重垣ふりきやうの事柳数
折ぶや造月光ふ大和作
扇流乃世作ふ着う世筆
嵐ふうるもるみ意
ま子ま事よ宮嶋や雪よ
橋くく奇ともも志ハ

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110
ガラス使用

雨さひ色つゐや二ほそび
河乃ぶ井葉よ夜ぶまぶ
水音(ヨト)をそ下氷よひうをふ
ふどとう池田う池田家
おまりよそついろをぎ
よ町や早稲もく八ふ町
初るし豊(ヨ)能秋(ト)初る主
雲いろるも身代太神
菌そ桃うれ実うれ桃菌そ
とあやひそく加や冷泊

りうれ罷(ヨ)出(ヨ)是(ヨ)初(ヨ)うれ乃な
敵さ泊ち蜂乃ちぶんさ
引(ヒ)飛(ト)うそぶやそそ甲散
矢史矢ひやくくく
初とうきり月あくはまの笑教よ
蚤るそ小雁雪ハ羽うそこぶるそ
雪あひはこ初ゆ描遠ありさ
黒豹(ユス)簾作り加をそ双六
双延さ歌多花枝ふ投貝
志ぶきさなをそう磐柳う

千さ久るの鯛なまの献なめさて
城らりまる亜そう鋤よ豕ノ
乳ゐ文武百下と感ノ文武乃て
云人ら〳〵春月ま月 伝 心
ゐくへ穂を礼歌刈民大原野
詣ぐむ萩(ハキ)蝶(シハ)茶葉〳〵きぐむ萩
乱る友(ともに)糊ノ年ひきのぐる月
以ゐ賢人ハ万ま雲下ゐい
世ゐる能(よく)救をたるへひるさよ
餉角ね家け這以ね爺(ぢい)う

二礼ふまれねや婆(ばゝ)ノ玉立車ノよ
進ろこが扨ろと進ろまろく
星ら吉や村乃(ノヲ)新人角ゐか
ま〳〵ゐまろふ水ノ庄まろと松婚
歩ゐ殿ろ亜む兼約能宝乃ゐ
世廿等ノ競ノ亜さ お務よ
食ノ奥供角ろで雀やろ奥供
飛まるも森もりも盛物
暁乃名ハこが矢なあとう死乃番
楪むノ一に柳ノろむろよ

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』　請求記号 み-110
ガラス使用

紙屋川水車巻軸

其そのよの住居よのまの手仕業わざの物
自ハクまゝぶれもり秋さ徒白ハクり
みづきさのや雁金をつバ桝ケさ
さゞる片喝食美ケ乾豆
ゑぞおりの多ぐ法華や月しろ
ケさし兆時まつりぐさ
それね共ぶびたる旅乃ねれて
万里のケ馬ぢんのもま
辞退ケ文れさのこをそ
ぐ餅も餌しまのさう

貳かたゞもする共ぶ仕業ケさん
墓まりさくきるなさゞ玉川
昆斜ゞを澄月乃泪
月ケし
哉しきねさの撰賛ケまの
実の鳥神共家よ言葉の
龍田河色さらぐさうさく
共よ主連紅葉の命ゞ
こゝえ方ハ言ケ家
ハるハたゝつゝ尽ぶまゝ
ゞれそむ扇ゝケ

うぐひすもうたゝ会釈や振り袖
鯛ぞと船いくつもまはりよる
たゞ一方奥定納まりたる方
うや初るべ宮まいりがる濱
矢猟こと文矢名り火射うち矢文
村鳥そうんもゝそりそうん
のきさ宮よ月氣きりのきさ宮よ
風琴のすきと宝庫ぞ庫
乳乞食ぐ負ふ子樂乃言
うハ乃宝ぞきふうさ直ハ方

西るべ魂しゐみかるべり
月本宮こゝをそうん金
乳比雛ハぜうきぬ情ぬぎを
落ちのさ陳教
風ふうふ石のひ近傍よ善宝や
矢射ゝ年よるゝ年の矢
風よ腐売ゝ近をみよこよ
痺しゐの宮被乃こ物や
天こ賤箱根柿陰ハ扶好ぬて
釘やハ外ゝまきゝそゝき

金屏風ひとつ蘇鉄そえて見月見
酌ある小寺肉屋の二三軒
門長閑貴賤門訪かごのり
都鄙〳〵集りやくとく
越こよ満ちみちて来こよ
しろい千心風ふくし君
化度衆〳〵云々天井嵩くなど
供沸ゆうぐうや血飛大黒
袋ひよの松銀発ふさしよ松のみよ
火又何うり〳〵香うろこ史

よのさ君ぬこよ箱火大ふこいのさ
なでまやま支倍りく山一分
月み恩をうよひ恵恵恩をひ
抱る松乃ま氣乃つまる癪
入で青うあ弁よ月てく
上一こりまう歩江葉
一ら節ろくまるゲ蝉暁ク
ろ乃松ぐりかくく猪名く
森山や干ぬよ乃ゆさ山彩や
四細ひろうこ繁〳〵た細

京さむし一度こひろひ新在家
よもぎ道筋〳〵
八十吉鍬乃墓れば十日經
朧〳〵かなし〳〵伯樂
逃てよし野の宮所まもる月てらて
お泥ハさ遠の雪さうもど唐
廣まる子さ秋さ綱とばまりし
桑のえん壷作先云つか猪乃桑
乳〳〵さうかうの子乃賀を発
きけとよ初級ら〳〵乃まくよ

ら〳〵春を惜〳〵花雪陽をうて
蒼田万葉吟舟金〳〵世
松こうるる露こよ松こ間
鶯も仙家ゝ乃も仙家ゝ
武氣狼〳〵みのこそ〳〵新茶
言ひこさらハ船こ恋ひ知こ
れ乃まこ歌ら恋乃ら淮乃
みがかん境こうかんこ
風ら稲やと乃多今こ乃多稲
乳ちうとう〳〵お春を中人

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110
ガラス使用

仲秋の夜よき程にて雲あり
なきこと一ばんくもり小相撲
興行ありとの事にて月影朱九宮
聴しに遠寺よりこと汁申き
刻ごろ月さんやすさんとも名ゟ
くるくや翌ゟくるくやハ
八塩なハ足ゟ出ゟ足ゟ花ゟ月ゟ
夫月深どくかゟ深きゟ

弐ゟやなゟ月ゟ漢去ゟ母ゟ親
仲秀ゟ新ゟ神ゟ仏ゟ浅

合五拾六點長十ゟ　西武

退歩合五百家宮
内長百一

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110
ガラス使用

千句發句難吟之
狂吟十首
神木梅

芳菜

きの椅さや方の人名月さそふ雲やなきうつくしの月やさく時

納涼

きり通しをみくろめしめの鳴

七夕

夜ふかく水くらまぎで七夕の名をかなしと梅ふるふなよ

月

初秋の霧や月も作るもの

紅葉翁

手ふるほどもなるうち庵そうく

こそり物るうすみの翁分

夢失

萱事ふりおろく井の水の遠よ

雪月花非ずを句にするやう

夢分

そくびや年月春一夜のうなゐを物り能人乾坤

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』　請求記号 み-110

ガラス使用

追加

民間ヨク神農（シンノウ）ノ御代ヨリ連ノ業ニナレルヲ見ルニ

気ヲ含ミ陽気ヲ助ケ

仙人ノ養（ヤシナ）ヒ賢路（カシコ）ヤ言ハレ

ひよこ（ヒヨコ）ニ

風ノ

気ヲ

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110

ガラス使用

嵐人をゝもはれそもし
ゝゝこりうち一ぱい花ざかり
玉章と雅平ぬ乃ぬぐひよりつく
しのくうやふし庵をもとるく
露ふるたよりそ月も芸服り
風そ、そゝす新枕乃袖
濃霜山乃宿ふりあさ乃着
雪土をつくくうひをれ敷
雪汁々駕ゝ蛮よだくやきへ
冨士のやうくうさ郊ハ

ゐんぎやうの金ごまをあらそひ
ぬるよのしかうたまる辻風
天狗とよばれん松の果
風をまつ夏ものをあけさ
冷ゝよ鏡のこゝろ（清水寺）
くらま虫地獄をうれをなのし
ふきおろす谷間の沈丁（じんちやう）
ごりごりとやこう谷吹（なに）
風ゆく秀ゝなることよもぎ取
えぶのひをそうもそ里人

ふ
山まても通ゝるまれ芳な乃海
こうもの釜とした雨る我雪を含
霖餓をもへ子を抱乃場
乃参いを芳ゝ新よのくし
押出を舟の甲斐なさ今ゝ
なうゝ橋乃ゆさゆゝき舟
大黒を伝ゝ乃れこゝをりて
病をつけそやうをるゞ
弐升寺乃たゝ度のくゝ伝承
風を南を伝こ聖（ひじり）誕

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110
ガラス使用

凡死も鋤くるめるを落入せよ
蓮のえんみそろの海ぞこ
乳母と幹乃そこそこわるも
つきそう笹なそう八くこ山
八ふとろのよれ半房薬
右そよくそくもむ腎茶
くるを先もつ飯くれそ
きやみ四くさも注ぐこと
かご包茶井やまもも
凡そこそらぐよ

葛餅を伝田のりてくれ
きぬよ初乳を他一そ何
あるおそみぞろ痩
福乃者よ外のとと題
三月川の寝る掘くる赤賊
凡そみそうくと病そこ
凡殺行農民ク涙乃ち暗
凡う大もれそう曲舞
ひさをく吸やに入妻
凡もこれり物もつく

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110
ガラス使用

翁あとさき家乃客を乃合よ
ふ風あらく竹つる大宮
荒くさそふ雲を引ひれ
おもつなのそ竹吟(ヨフ)まる
雲をとゝめわれ月見と宇治の夜
凡がそれをくるくる動伝
ふくら服(ヒラ)さとろう墨(スミ)乃傘
うろおもひこゝと開乃
逃(ニゲ)物あゆ行そ見と居
船を艇四乃森をとつさ

神楽(十三)乃そ行あれありひされ
八なりおゝよるそうづう
ひのひそるや家(ク)さ逃
住ひ能をと月(十二)照(テ)出され
風まちも月待も前の代うな
泉のつのりく雲もおそ
るそつさ客を久舎を風と
行とわ雲や角(カク)乃こゝひ
さけ夜の乃代もの寺(ハク)持を
風乃詩作おそるなの

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110
ガラス使用

風水をあやつる句あり奇
なりされどうらひらの安中さ
ひとり抱く孝子(キャウシ)の夢のさま
気のえんつり風そよやく
えりもとに氏なき処(ヤキ)乃冬乃月
消えよげにひとさおろし杯と宝
遺言(エイ)を抱く父子の宮うつ
平安城を時雨(シセツ)る相撲(スマフ)
取軍好(ミニ)意処乃運気(ウンキ)乃世よ
比丘(ビク)なりし乃初春(ハツハル)遍(ヘン)

花ゆうや掬(フモト)菜も冬も句雪る
気乃海そうもう亀山

合(ガツ)巻宝歴内長十六 賈

水車ひやひやうの句好
うそ百ひさ逃(ニゲ)水くわる

挨拶

千江
みなと咲こす葉末より苔の花　米庵
重陽やみそうそうや向うより　東民
隆元
よくもする月や文車の重　山民　宗文
天狗とぶやや月九也文欲　木村民　道益
若竹よの若や世をもる車髪　上田民　正重
風車そうや。ゑ九風信欲　三緑寺　白哲言
汲ハ業作ゑ若水車うみ　芳岡
句もまつる結や秩禄風車　定勝
天つらもひくやゑ花車　九作

二ロム
銭敷笹もまつるや水車　瑞泉寺　敬三
ときめる千句や泉水車　円
云乃葉ハ雨九羽るとの稜ル　円
まつれる尺時句今や水車　円
ヤハ
ねむる数うの九数華風車　天性寺　賀秦
まるくなんるとろむ風車　円
さくらんのむしてまるやゆふ雨　ニア
作りやまつる言葉九花車　小川民　正代
カ
番やゑよ風のゆふ雨九花車　宗治
まるまつて風ゑ九ゑの水車　日村民　重晴

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』　請求記号 み-110
ガラス使用

まゐりそうや雨後の秋の声　伏見氏　正村
廻文やなをもとろく花の夜　伏見氏　正村
花捕の和歌の流や水車　助幸
らる客のなき箱の玉の水車　永夏
十百句を会とさゝや車百合　改善氏　改善
種さうろ世ふりそうる客不正相
連歌や蟬の小川の水車　景長
花ちりて客の絶へ間の車かな　大坂　義賞
水車作やる所囲ふくろく　長谷
廻文をぬむり梅しろ〳〵花　行清

大橋氏　改員
乃かりもりおなく物々の秀
梅好雨物うや廻文水車　行忠氏　常種
若水やなりうろと紙子川　鶴川氏　勝成
吉村氏
茶ふくと花まゐる頭巾の義武
ここまでも雨る指物や花車　秋氏　藤次
宗有
流月をとゝろ〳〵や水車
車花の月は廻るや廻〳〵　山下氏　義方九
陸奥守氏
智恵の物やまゐる門花車　寛
石橋氏
和合の好清やまゐる車　勝久
西村氏
かりものや和歌九客の乃歳うり久重

子日や十こ入る物の荷ひ売　小野寺氏義道

まいり戻る月も名ある義道賀　同

元日や蓬莱の台ともの元一美我

まいる日や史文王孔充車　義充

廻文やねむし天室論ず梅　今井氏和壽

若苗や作文ある水車　不知名

よいるまかいろ氏荷ねる水車　同

ゆり出しるやの梨孔充車　津坂氏正次

しい一こ十ぬ日ハ中将氏勝重ノ

ま子作ん猿よりの新ま人飛ぶこ

なりまき程の指令数の打ち九後の

雨八日ん九十三日ハ充ノ月なよ

て歌ぬ新ま春よ新ま探ひ初し

物数の打ちま氏ま貝野ノ種

ノ花のまくなるもいよめ氏

作ま子ハれちく雨ふこ新ま中

なまま氏ま数葉もあるへ出ま

ま元花ましれなくまれなる八

み
110

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『俳諧廻文千句水車集』 請求記号 み-110

ガラス使用